

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成27年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成27年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 27 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、くろかわ、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 146 企業

2. 調査対象期間

平成 27 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 27 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	25
小 売 業	43
サービス業	45
合 計	146

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成27年4月～6月期)の調査において、産業全体の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より12.0ポイント改善し△26.4(前期△38.4)となった。産業別にみると、製造業は△15.1(前期△29.0)と13.9ポイント改善、建設業が△12.0(前期△8.0)と△4.0ポイントの悪化、小売業では△46.4(前期△54.7)と8.3ポイント改善、サービス業では△24.4(前期△45.8)と21.4ポイント改善した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体としては今期は前期(H27年1月～3月期)に比べて改善した。産業別にみると、製造業は△21.2(前期△22.5)で1.3ポイント改善、建設業は△24.0(前期8.0)で△32.0ポイント悪化、小売業で△44.2(前期△48.8)と4.6ポイント改善、サービス業では△17.8(前期△45.7)と27.9ポイント改善した。

② 採算の状況

採算D Iについても、全体としては今期は前期に比べて改善した。産業別にみると製造業で△33.3(前期△32.3)と△1.0ポイントと若干悪化、建設業は△24.0(前期△16.0)で△8.0ポイント悪化、小売業は△47.5(前期△51.1)で3.6ポイント改善、サービス業では△31.2(前期△54.1)と22.9ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では15.6%で前期比2.7ポイント増加、建設業では16.0%で前期比△4.0ポイント減少、小売業では2.4%と前期比△2.3ポイント減少、サービス業でも6.8%で前期比△3.6ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H27年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（DI）は製造業が1ポイント悪化のゼロ、非製造業は1ポイント改善のプラス4だった。先行きは製造業が横ばいのゼロ、非製造業は3ポイント悪化のプラス1だった」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）DIは、全業種でマイナス値であった。前期との比較ではサービス業で大幅な改善、製造業、小売業でも改善したが、建設業では大幅な悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額DI比較では、サービス業では全国並み、東北を上回る一方、製造業では全国以下東北以上、建設業、小売業では全国、東北を共に下回った。

表-1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・DI)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 14.0	△ 9.3	△ 23.4	△ 24.6	△ 22.5	△ 21.2
建 設 業	△ 17.1	△ 14.7	△ 21.8	△ 21.5	8.0	△ 24.0
小 売 業	△ 42.8	△ 30.6	△ 48.5	△ 39.4	△ 48.8	△ 44.2
サービス業	△ 25.2	△ 18.0	△ 31.1	△ 29.3	△ 45.7	△ 17.8

② 採 算

宮城の今期の採算DIは、全業種でマイナス値であるが、前期との比較では小売業、サービス業で改善、製造業で若干の悪化、建設業で悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算DI比較で、宮城は全業種で全国以下、東北との比較では製造業、建設業、サービス業では東北以上だが、小売業では東北を下回った。

表-2 採算の状況 (前年同期比・DI)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 24.9	△ 19.6	△ 39.9	△ 35.8	△ 32.3	△ 33.3
建 設 業	△ 20.9	△ 20.2	△ 22.3	△ 28.0	△ 16.0	△ 24.0
小 売 業	△ 42.2	△ 34.2	△ 40.4	△ 39.0	△ 51.1	△ 47.5
サービス業	△ 32.7	△ 24.2	△ 40.0	△ 32.5	△ 54.1	△ 31.2

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（27年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で3.0ポイントの改善、建設業では△9.4ポイント悪化、小売業で△4.7ポイント悪化、サービス業では△2.6ポイントの悪化見通しとなった。採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で17.7ポイントの改善、小売業で10.9ポイントの改善の一方、建設業で横ばい、サービス業では△5.2ポイントの悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上、採算共に宮城は全国を上回る改善方向の見通しとなった。建設業では売上では全国を上回る悪化見通しとなった。小売業では売上では全国を上回る悪化見通しの一方、採算では全国を上回る改善見通しとなった。サービス業では売上、採算共に全国では改善見通しである一方、宮城では共に悪化の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 9.3	△ 10.3	△ 21.2	△ 18.2
建 設 業	△ 14.7	△ 16.9	△ 24.0	△ 33.4
小 売 業	△ 30.6	△ 32.4	△ 44.2	△ 48.9
サービス業	△ 18.0	△ 15.1	△ 17.8	△ 20.4

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 19.6	△ 16.0	△ 33.3	△ 15.6
建 設 業	△ 20.2	△ 19.6	△ 24.0	△ 24.0
小 売 業	△ 34.2	△ 32.4	△ 47.5	△ 36.6
サービス業	△ 24.2	△ 22.3	△ 31.2	△ 36.4

2. 県下産業別の景況

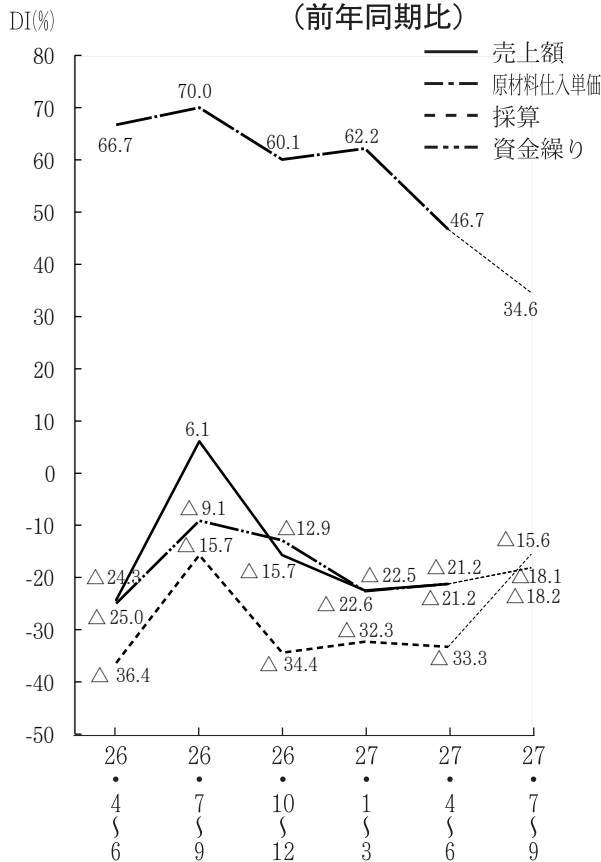
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△21.2（前期△22.5）となり1.3ポイント前期より改善し、採算D Iは今期△33.3（前期△32.3）で△1.0ポイントの悪化、資金繰りD Iは今期△21.2（前期△22.6）で1.4ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期46.7（前期62.2）と△15.5ポイント改善し、来期も引き続き改善の見通しであり、原材料の高騰状況は相対的には緩和の方向にある。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



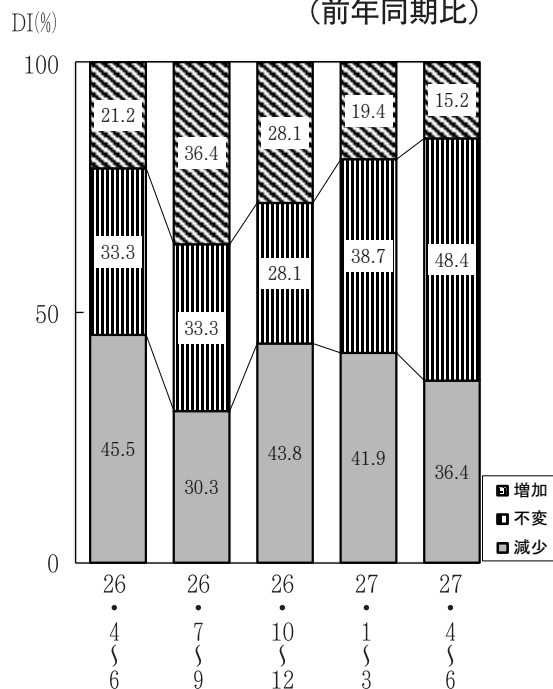
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の15.2%（前期19.4%）と△4.2ポイント減少し、「減少」と回答した企業も36.4%（前期41.9%）と△5.5ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは△21.2（前期△22.5）となり前期比1.3ポイント改善した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

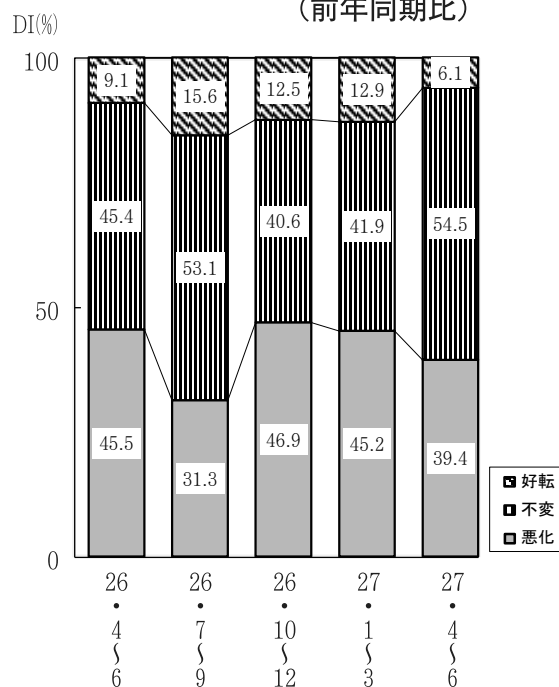


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の6.1%(前期12.9%)で△6.8ポイント減少し、「悪化」と回答した企業も39.4%(前期45.2%)で△5.8ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△33.3(前期△32.3)で前期比△1.0ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



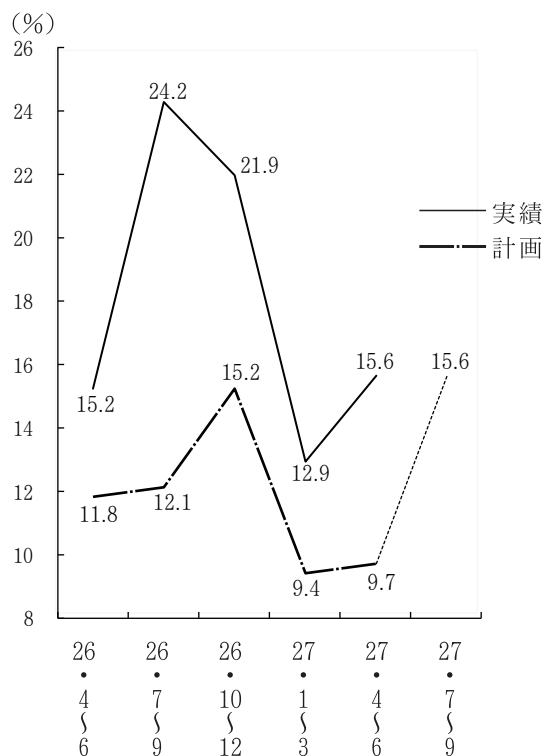
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の15.6%(前期12.9%)で2.7ポイント前期より増加した。

その設備内容は、工場建物、生産設備、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の15.6%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、付帯施設、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

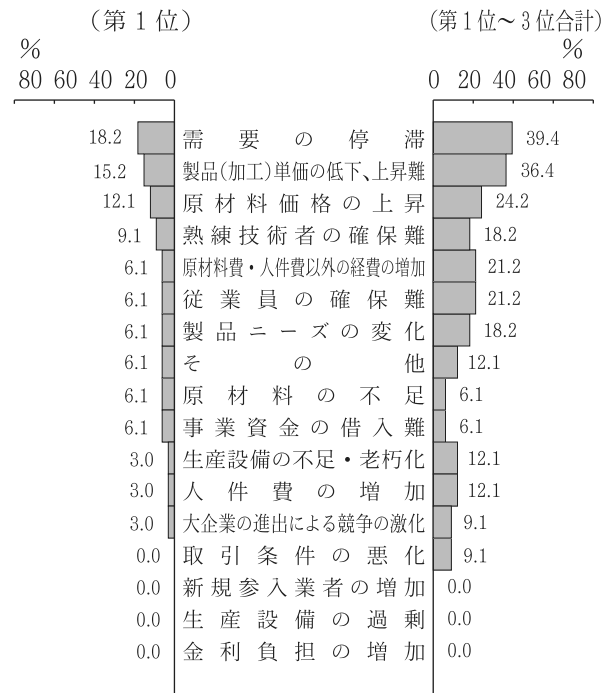


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」の18.2%で、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」が15.2%、「原材料価格の上昇」が12.1%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも同じく最上位が「需要の停滞」で39.4%(複数回答計、以下同じ)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」が36.4%、「原材料価格の上昇」が24.2%と続いた。

図1-5 経営上の問題点



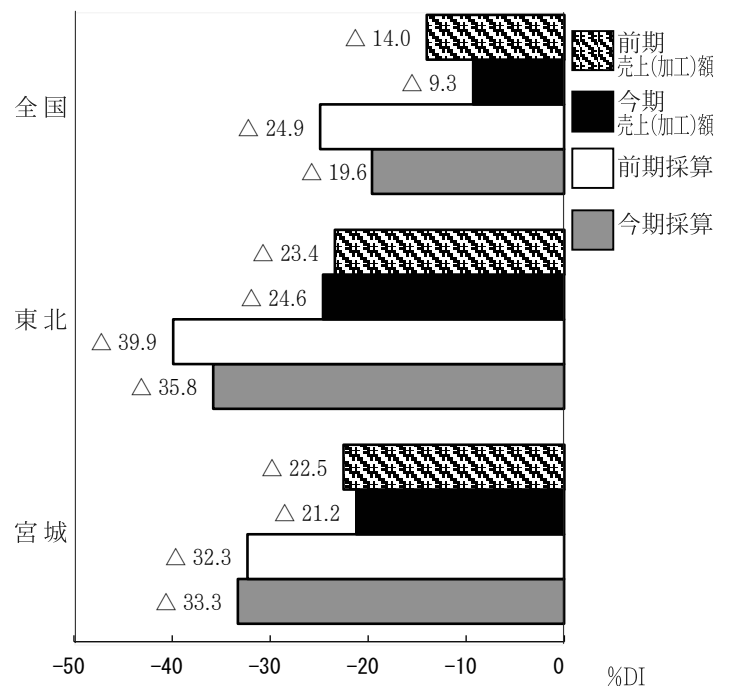
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額D Iでは、全国、宮城の順に改善したが、東北で悪化した。

採算D Iの比較では、全国、東北の順に改善したが、宮城で若干の悪化となった。

本県回答事業者からは「円安で海外生産減少等の影響なのか例年よりも秋冬物の生産スタートが早まっている」(縫製業)、「技術者不足で受注があっても対応しきれない」(プラントサービス業)などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



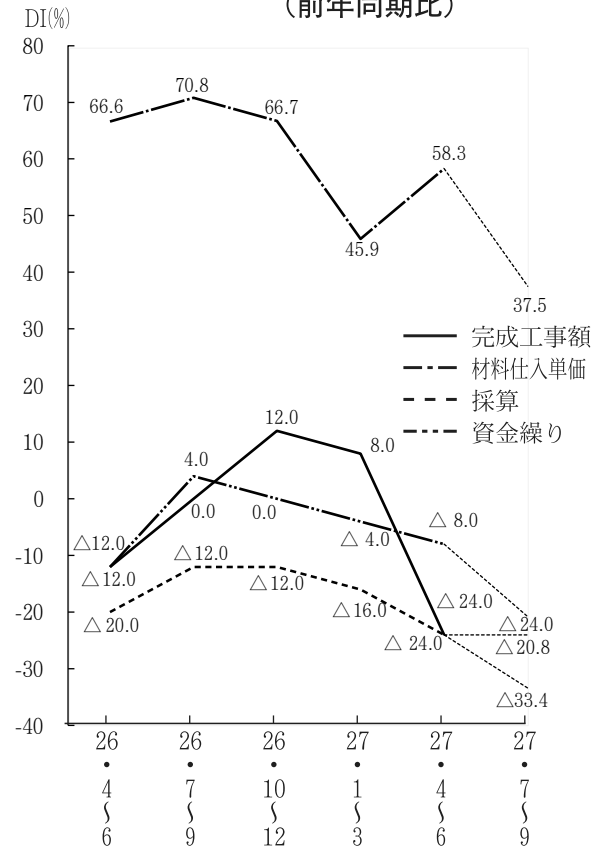
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△24.0（前期8.0）と前期より△32.0ポイントと大幅悪化し、採算D Iも今期△24.0（前期△16.0）で△8.0ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△8.0（前期△4.0）と△4.0ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 58.3（前期 45.9）と前期より 12.4ポイント上昇した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



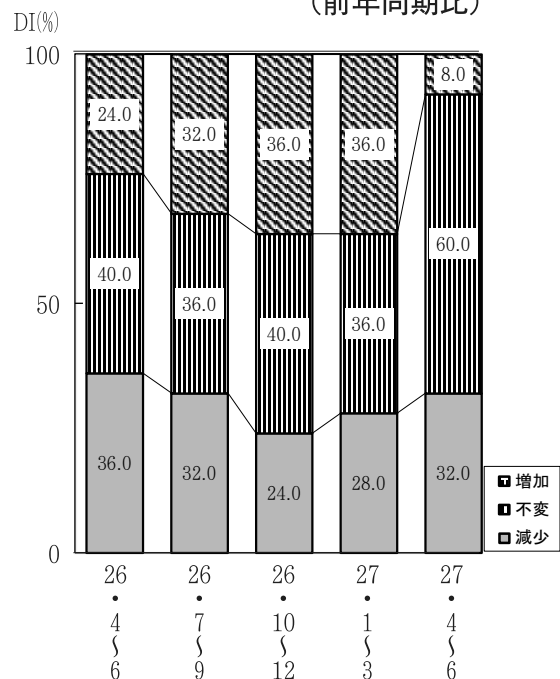
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の8.0%（前期36.0%）で△28.0ポイント減少、「減少」と回答した企業は32.0%（前期28.0%）と4.0ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△24.0（前期8.0）と△32.0ポイント前期より悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

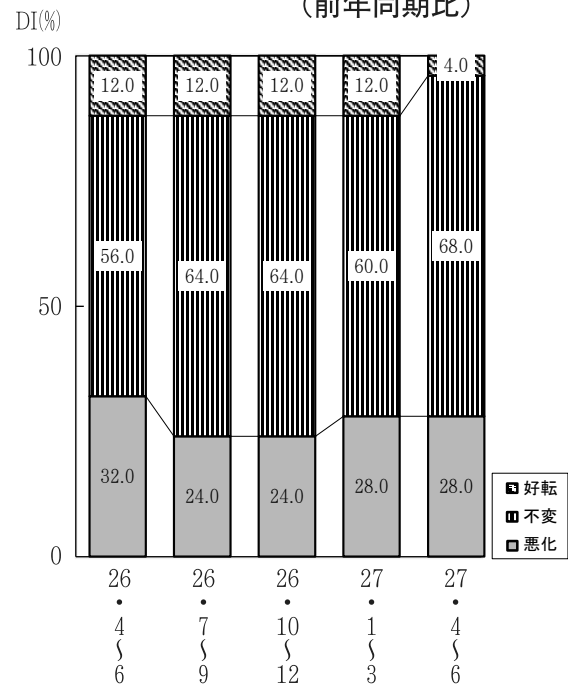


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の4.0%(前期12.0%)で△8.0ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の28.0%(前期28.0%)で横ばいであった。

その結果、採算D Iは△24.0(前期△16.0)で前期より△8.0ポイント悪化した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



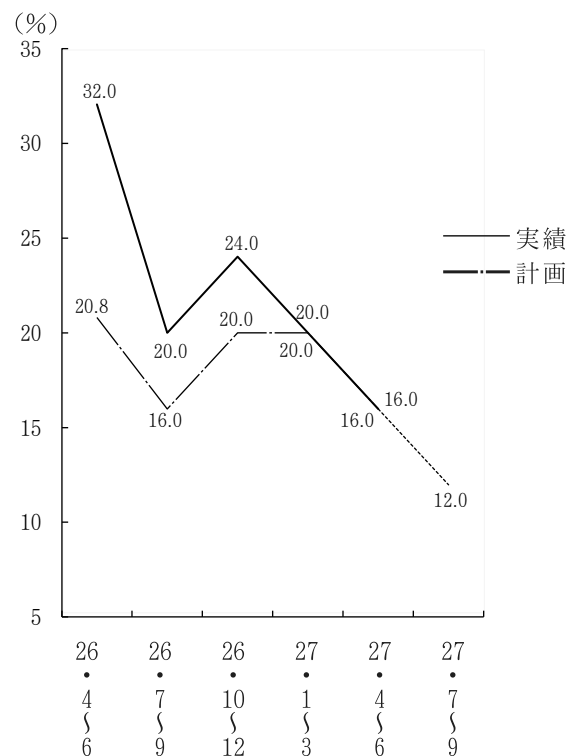
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の16.0%(前期20.0%)で前期より△4.0ポイント減少した。

その設備内容は土地、建設機械、車両・運搬具、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の12.0%で、その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、福利厚生施設、その他となっている。

図2-4 設備投資の状況

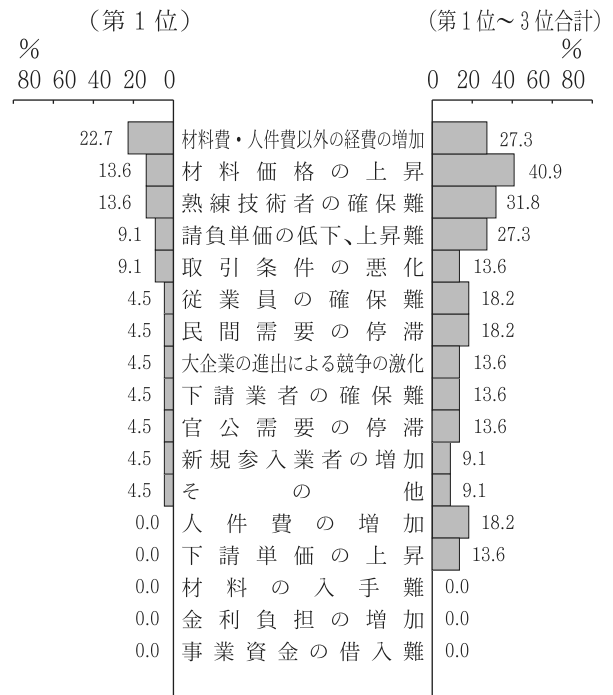


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料費・人件費以外の経費の増加」の22.7%で、次いで「原材料価格の上昇」と「熟練技術者の確保難」が13.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「材料価格の上昇」で40.9%（複数回答計、以下同じ）、次いで「熟練技術者の確保難」が31.8%、「材料費・人件費以外の経費の増加」と「製品（加工）単価の低下、上昇難」が27.3%で続いた。

図2-5 経営上の問題点

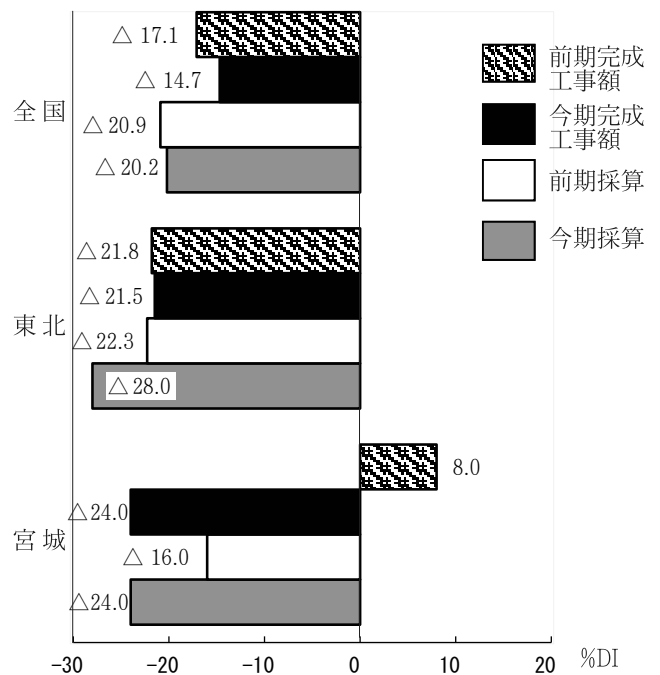


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では売上額DIは、全国で改善、東北でほぼ横ばい、宮城で大幅悪化となった。採算DIは全国で若干の改善、東北で悪化、宮城はそれを若干上回る悪化であった。

本県回答事業所からは「震災復興関連の需要も一時落ち着いた感があったが、再び復興住宅建築の動きが始まりいくらか明るい兆しである」とのコメントや、「材料価格が上昇傾向にあり、利益確保のための値上げも考慮中」とのコメントも寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較（前年同期比）



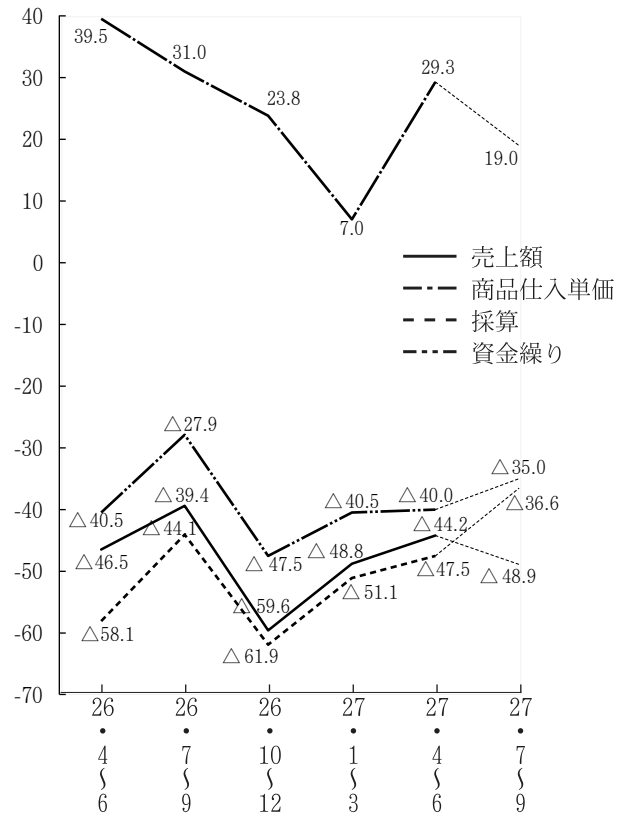
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△44.2（前期△48.8）と4.6ポイント改善し、採算D Iも今期△47.5（前期△51.1）で3.6ポイント改善、資金繰りD Iも今期△40.0（前期△40.5）で0.5ポイントの若干の改善と、いずれも前期に比べ改善した。

商品仕入単価D Iは今期29.3（前期7.0）となり22.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



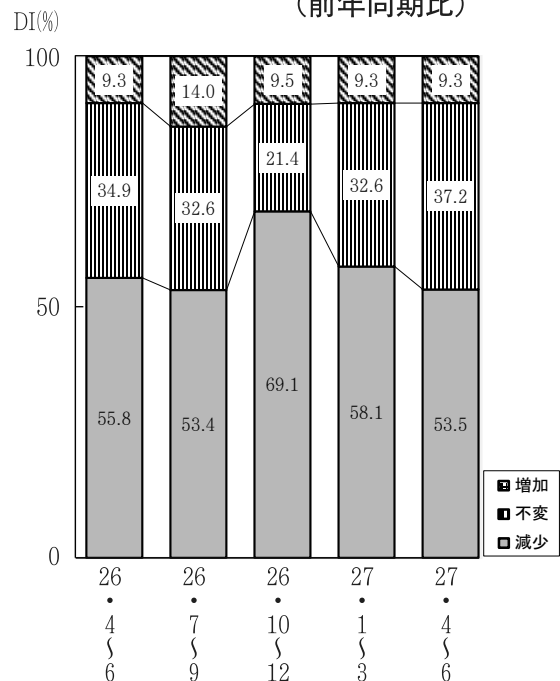
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の9.3%（前期9.3%）と横ばい、「減少」の回答は、今期は全体の53.5%（前期58.1%）と△4.6ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△44.2（前期△48.8）と4.6ポイント前期より改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

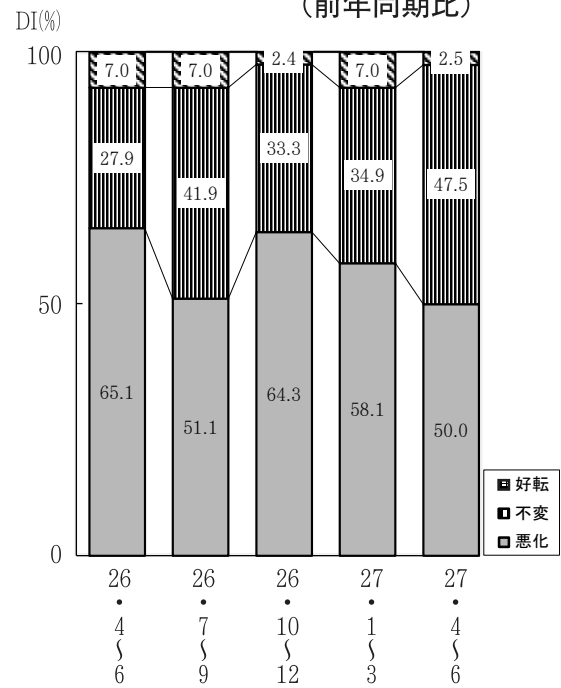


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.5%（前期 7.0%）と△4.5ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の50.0%（前期 58.1%）で△8.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△47.5（前期△51.1）で前期より3.6ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



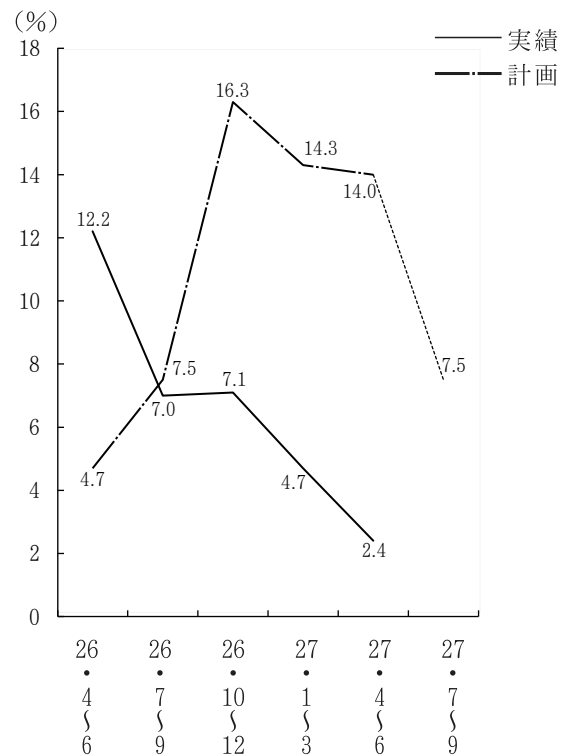
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の2.4%（前期 4.7%）で、前期より△2.3ポイント減少した。

その設備内容はOA機器であった。

来期に設備計画している企業は7.5%で、その内容は車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図3-4 設備投資の状況

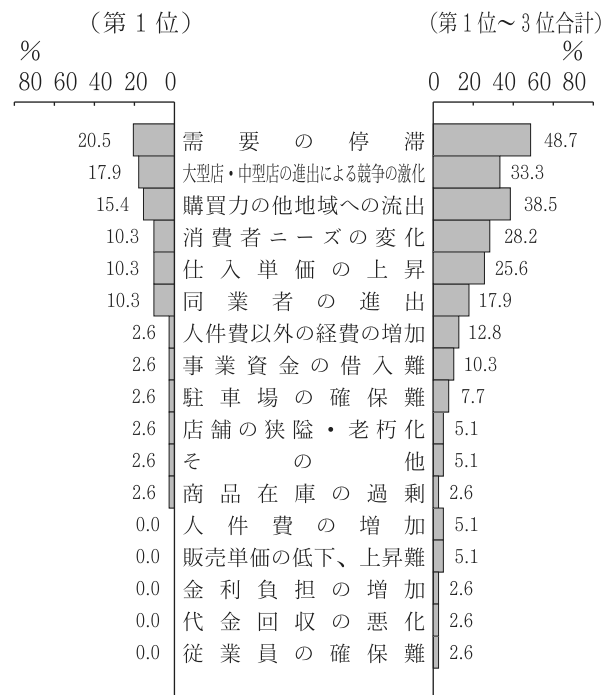


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」で20.5%、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」が17.9%、「購買力の他地域への流出」が15.4%と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(48.7%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「購買力の他地域への流出」(38.5%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(33.3%)が続いた。

図3-5 経営上の問題点

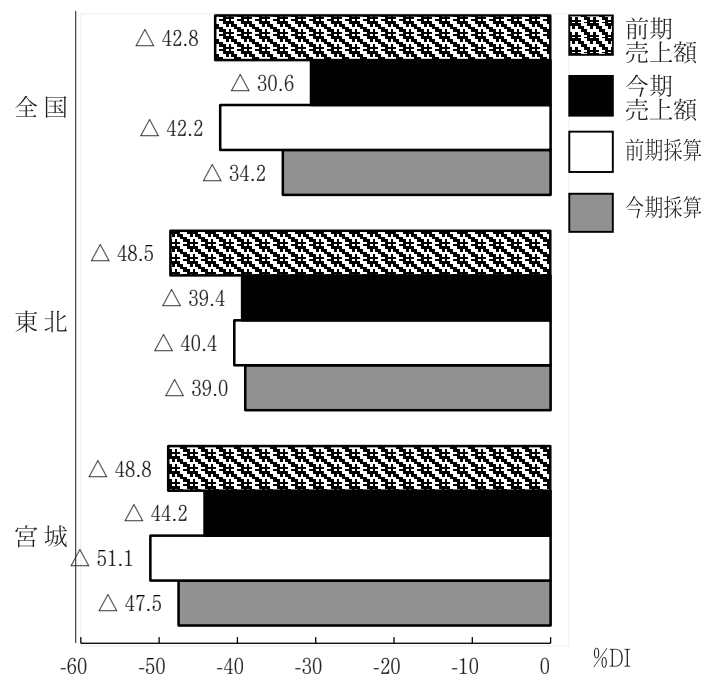


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DI、採算DI共に全国、東北、宮城全てで前期より改善した。売上DIの改善度は全国、東北、宮城の順であった。採算DIの改善度は全国、宮城、東北の順であった。

本県回答事業所から「当社の強みとしている地元食品の風評被害も終息に向かいつつあるため売り上げも上昇傾向にある」(自然食品販売)、「割増商品券の発売が始まる。消費者の購買意欲の向上に期待」(菓子販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



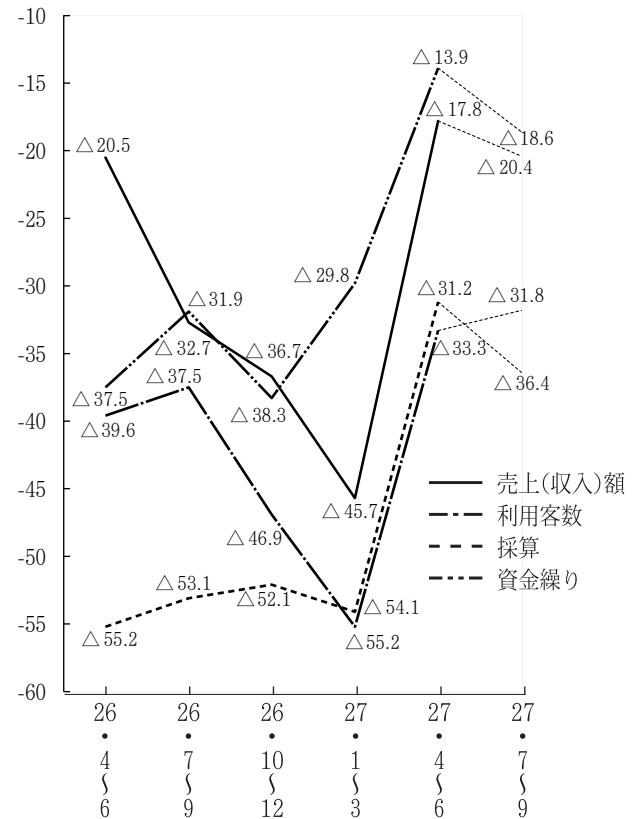
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△17.8（前期△45.7）で27.9ポイント改善、採算D Iも今期△31.2（前期△54.1）で22.9ポイント改善、資金繰りD Iも今期△13.9（前期△29.8）と15.9ポイント改善した。

利用客数D Iも今期△33.3（前期△55.2）で21.9ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



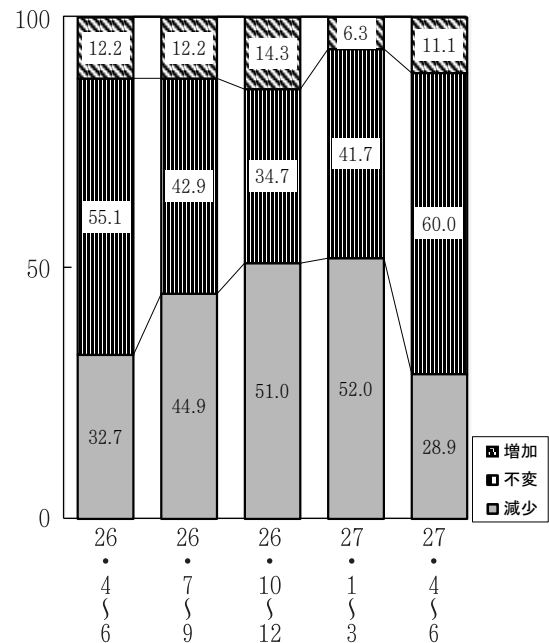
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の11.1%（前期6.3%）で4.8ポイント増加、「減少」の回答は今期28.9%（前期52.0%）で△23.1ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△17.8（前期△45.7）で前期より27.9ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

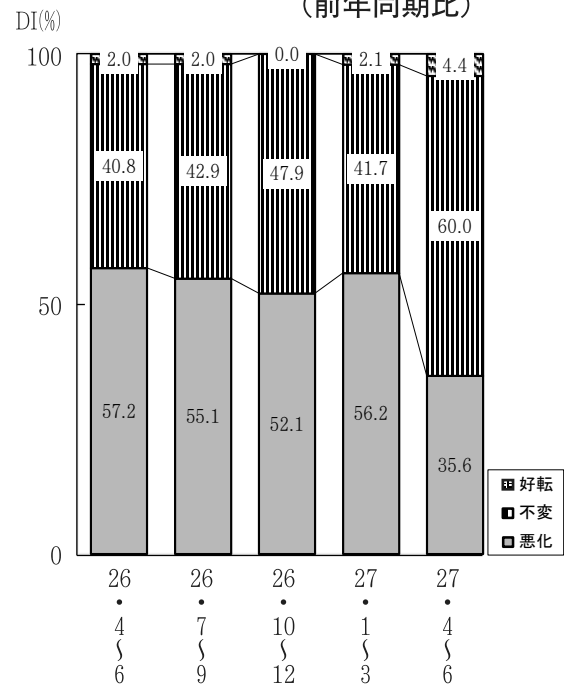


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.4%（前期2.1%）で前期比2.3ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期35.6%（前期56.2%）と△20.6ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△31.2（前期△54.1）で前期より22.9ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



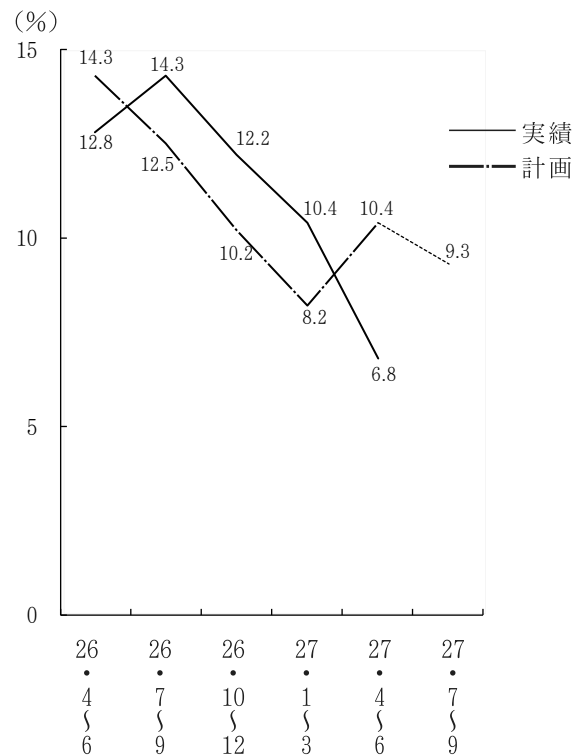
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の6.8%（前期10.4%）で前期より△3.6ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具であった。

来期に設備計画している企業割合は9.3%であり、その内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図4-4 設備投資の状況

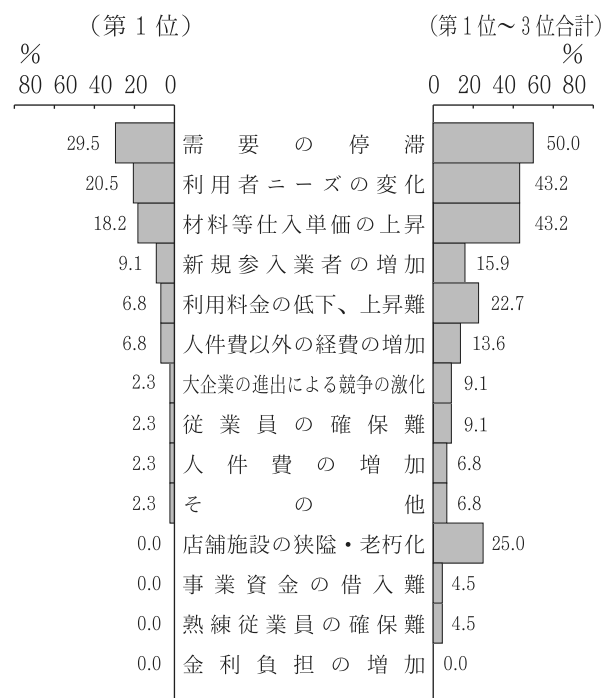


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(29.5%)で、次いで「利用者ニーズの変化」(20.5%)、「材料等仕入単価の上昇」(18.2%)が続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(50.0% (複数回答合計、以下同じ))が最上位で、次いで「利用者ニーズの変化」と「材料等仕入単価の上昇」が同率(43.2%)で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DI、採算DI共に宮城、全国、東北の順に全ての区域で改善された。

宮城の前期からの改善度は、売上DI、採算DIともに全国、東北を大幅に上回る改善度であった。

本県回答事業所からは「利用客が増加し、売上とともに利益も増加している。但し消費増税による対応が困難」(理容業)とのコメントや、「土木・建築関係の宿泊が減少傾向に感じる。今後の公共事業等に期待」(旅館業)とのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

